

入塾趣意書

斉藤竜貴

私は、100年後に国際社会で生き残れる主権国家日本を実現する。

日本は戦後最も厳しい安全保障環境にある。国連常任理事国であるロシアがウクライナを侵略し、同じく中国が台湾併合の野心を公言するなど、平和と独立が目の前で崩れ去ろうとする悲しい現実がある。だからこそ私は、主権国家としての必須条件である「領土・国民・主権」を守り抜く術を探究し実践することで、日本の平和と独立に貢献する。

東日本大震災は私にとって、初めて日本国というものを意識した出来事であった。国家の危機に何も出来なかった中学生の私は、有事の際に必要なとされる人間になろうと心に誓った。政治判断は、国の存亡を左右する。日本においては幕末、志士たちの活躍で植民地化を回避した一方、戦後7年弱にわたり主権を失った。フランスはナチスドイツにパリを陥落させられたが、ドゴール率いるレジスタンス運動の結果、戦後は戦勝国としての地位を確立した。力強い国民、力強い主権があれば、領土をも回復できるのだということを、私はフランスから学んだ。戦争による悲劇を回避する為には、平素から守り抜く「領土・国民・主権」を醸成しておくことが重要だ。その思いで私は大学卒業後、自衛官という道を選んだ。

防衛省陸上自衛隊において、最大40名を率いる小隊長として我が国の安全保障に貢献した一方、戦場で最後に倒れた線が国境線になるという厳しい現実を痛感した。このシビアな現実を国民と共有しなければならないと考え、PRプランナーに転身。政治家の言葉を国民に伝える努力を重ねた一方、政治家自身の言葉や意識が変わらなければ、国民主権は理想的に機能しないことを痛感した。このままでは領土も国民も主権も、骨抜きの日々になってしまう。だから私は守り抜く「領土・国民・主権」を定義付け、主権国家日本の生き残りに邁進する。

守り抜く領土とは、「①諸外国との間に領土問題が存在せず、領土を巡る紛争が生じ得ない状態」。「②国家間の勢力均衡が保たれ、武力衝突が生じ得ない状態」。「③日本全国津々浦々に、その土地で生きる人々が暮らし、人生のバトンを繋いでいくことのできる社会資本整備がされた状態」と考える。しかし北方領土・竹島の領土問題を抱え、尖閣諸島を巡り東アジアの緊張が高まる現在は、理想的とは言いがたい。私は領土問題を解決し、勢力均衡を保つ防衛力整備を適切に行い、日本全国に住みたいと思える故郷がある日本を実現し、守り抜く国土を創り出す。

守り抜く国民の暮らしとは、「①全ての国民が健康で文化的な生活ができる状態」。「②日本人の少子化に歯止めをかけ、人口減少ではなく人口維持ができる状態」。「③自然災害や火災・犯罪から命を守り、安心して暮らすことのできる状態」と考える。しかし、低賃金・物価高に苦しみ、可処分所得の低下から若者が結婚・出産を諦め、大規模自然災害によって多くの命が失われる現状は理想に程遠い。私は国民の可処分所得を向上させ、結婚・出産に前向きになれる社会を実現し、災害に強い街づくりで、守り抜く国民の暮らしを創り出す。

守り抜く主権とは「①全ての国民が主権者として、あらゆる手段を通じて政治にアクセスできる状態」。「②諸外国の関与に対して一定の独立を保ち、自らの国のことは自らで決めることのできる状態」。「③自由主義・民主主義が徹底された社会像を、国際社会に堂々と示すことのできる状態」と考える。しかし低い投票率と硬直化した利益表出システム、国際情勢から受動的に意思決定する外交、諸外国の世論工作への脆弱性の高い現状は、速やかな是正が求められる。私は、国民の声をあらゆる手段で聞き集め、世論を直接政治に反映させ、更には世論をリードする政策で支持を得ることで、守り抜く民主主義国家を創り出す。

私は「領土・国民・主権」を守り抜き、100年後に国際社会で生き残れる主権国家日本を実現する。

令和6年3月28日